



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2025/12/09

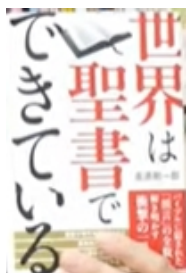
**患難時代を映し出すナチス帝国教会時代におどらされないために  
今こそ旧約聖書を読もう！**

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今クリスマスのシーズンで全国を駆け巡っております、中々収録することができませんが、訪問先で本当に色々な出会いがあって感謝でした。先日は岡山に行ったんですが、そこで一つ無茶振り企画があったんですね。「小学2年生から中学2年生までの子供たちを一グループにして、日曜学校スペシャルをやってください。30分時間を与えるので、テーマは『子供にも分かる終末論』でお願いします」ええっ！と。もう悩みに悩んで、させてもらいました。携拳も艱難時代も、その後に来る新しい時代も、小学2年から中学2年生までの子供たちにお話ししたんですけどね、良かったんですね。

このお話しの20分後に大人向けの聖書研究会が始まるんですが、その20分間、聞いていた子供たちがみんな集まって来て「質問！」「質問！」「質問！」子供の心って柔らかいですね。分かったら、イエス・キリストの再臨・携拳がどんなに素晴らしいかが届いて、それは恐ろしいことではなく、超嬉しいことなんだと分かる時、もう目がキラキラするんですよ。やって良かったなあと思いました。



大人のメッセージの時間に、「『世界は聖書でできている』をテキストにして、みんなで読書会／輪読会をします」という企画を持って来られた方がいたんです。実はこれ、初めてじゃないんですよ。今全国で、これを輪読してじっくり味わい、後で質問会をして考えを深めていこうという小グループがあるんですね。

「なぜ、そんなふうにしてくださったんですか」と聞くと、ある方がこう話してくださいました。「今日本に広がりつつある反ユダヤ主義・反イスラエル主義に対するワクチンになるからだ」本当に光栄でした。

なぜ『世界は聖書でできている』のを知ることがワクチンになるのか。ユダヤ人・イスラエル人を呪うことによって、どんなに世界の見方が歪んでしまうか、どれほど大きな祝福を受け損なってしまおうかが、縷縷説明されているんですね。



今全国展開をしている書店に、未来屋書店という本屋さんがあります。多分東京中心で、これは板橋の未来屋書店さん。イオンに入ってるんですね。そこが『世界は聖書でできている』を、話題書として全面推しのコーナーを作ってくださいって、ショート動画を流しているんです。

この本の5章を見ていただくと、ユダヤ民族を中心としていかに世界が展開しているか、が分かっていただけではないかと思えます。

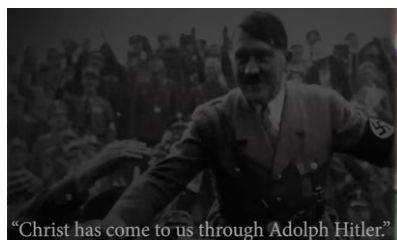


これからの時代を考えていく時、ある映画がすごくヒントになるんですね。それは『ボンヘッファー』ごうちゃんねるでも何回か説明しました。ボンヘッファーが活動していた今から80年前、ナチスドイツ政権下で、教会は何をしていたのか。反ユダヤ主義に走っていたんです。

ヒトラーは600万人のユダヤ人を強制収用所になぶち込んで、大量虐殺しました。その時、教会は何をしていたのか。声を上げたのか、上げなかったのか。上げなかったんですね。

それどころか、ユダヤ人でイエスを信じている人たちを教会から追放した。それを後押しした人たちが、たくさんいたんです。全員ではありませんよ。ボンヘッファーのように、それに対抗する人たちもいましたが、彼らはみんな同じように投獄されたり、強制収用所に連れられて行って、殉教したりしました。映画『ボンヘッファー』の時代の教会を考えると、艱難時代のひな型のようになってるんです。艱難時代のひな型、どの点でそっくりなのかを、今日ご一緒に考えたいんですね。

ヒトラーが政権を取るまでは、ドイツには27の教会が、国教会ですがそれぞれ独立して存在し、自分たちの教会を守ってたんです。ヒトラーが登場すると、この27をひとまとめにして、第三帝国の帝国教会として無理やり合併していきます。その時、抵抗するクリスチャンが少なかったんですね。それどころか、親ナチズムのクリスチャンが出て来た。これ、ほんとにクリスチャンと言えるのかどうか。



その中の神学者がこう言ってるんです。ちょっと薄暗い画像ですが、「キリストは、アドルフ・ヒトラーを通して私たちのところに来てくださった」今クリスマスのシーズンですね。イエス・キリストがこの世界に降誕されたことを思い起こすのがクリスマスですが、いやいや「ヒトラーを通してキリストが来てくれた」ということで歓迎している。

ヒトラーとイエス・キリストに何の繋がりがありますか？それなのに、「ヒトラーを通してキリストが来てくれた」と、自称クリスチャンが言っている。

どういうことなのか？これがもう一度起こるんです。艱難時代の前半3年半に。だから、これを考える価値があると思うんですね。



1933年1月、ヒトラーが市長に選出されました。そのわずか2日後に、ボンヘッファーは全国に向けて、ラジオで演説します。

「ヒトラーは危険な人物です。彼はキリストじゃない。教会のトップはキリストです。彼はトップじゃない！」

ヒトラーの危険性についてラジオ放送するんですが、逆鱗に触れて、途中でプチッと放送を切られてしまったんですね。



代わりに出て来たのがルードウィッヒ・ミュラー。

1933年7月14日、ヒトラーのナチス帝国が、帝国教会の法的設立で、教会を統合して国家教会を作り、彼がその教会のトップに就任しました。事実上、ヒトラーの教会代理人です。

彼が最初にしたのは、教会からユダヤ人神父や牧師を追放すること。これが9月くらいに起こりました。多分。

11月になると、「旧約聖書はヘブル語で書かれていて、非常にユダヤ的だ。よって、旧約聖書は聖書として認定しない。聖書から旧約聖書を除外する」と決めたんですね。「そんなん、おかしいやろ！なんでおまえごときが聖書か聖書でないか決めて、これを除外するなんて勝手に言えるんだ？！」

これ、いきなりやったら、だれもがそう思いますよ。そこで、何か月も何か月もかけてゆっくりゆっくり、この暴挙を受け入れることができるように下ごしらえをして来たんです。

よく言われるたとえですが、カエルは変温動物ですね。カエルを水を張った鍋に入ると泳いでるんですが、とろ火でゆっくりゆっくり鍋を温めていくと、湯温と同時に変温動物の体温も上がっていくので、熱湯になっているのに気づかない。気づいた時には茹でガエルになっているというね。

急に変わったら驚くけど、ゆっくりゆっくり段階を経て、墮落の道を落ちていったのです。では、どのようにして旧約聖書が聖書から除外されて行ったのか。

**第1段階**；「旧約聖書はユダヤ人にずいぶん偏っているよね。ユダヤ人にテコ入れしすぎてるよね。ユダヤ人をえこひいきしすぎてるよね」

ユダヤ民族にあまりにも偏り過ぎている。今の考えから見たら、昔の人が書いた本はやっぱり間違ってるところもあると、聖書を聖書で解釈するのではなく、自分たちの価値観で聖書を改ざんしていく。

「これ偏ってるよ。第一、ユダヤ民族のことを語っているけど、アーリア民族のことは書いてないじゃない！」旧約聖書は、昔の人が書いたユダヤ民族中心の、あまりにもバランスを欠く偏ったもので、ドイツ的キリスト教に合わない。

新約聖書と比べると旧約聖書は劣った聖書だ。「クリスチャンの皆さん、新約聖書を読みましょう。旧約聖書は難しいし、ユダヤ人のことばかりだし、残酷なこともいっぱい書いてあるし、旧約聖書は新約聖書よりも劣っている聖書です！」

今でも、旧約聖書をあまり読まないクリスチャンがいます。新約聖書は毎日読む人でも、旧約聖書はなんか苦手で、レビ記は難しいし、知らない名前はいっぱい出て来るしということで、旧約聖書を読まないクリスチャンがいますよね。

あるいは、旧約聖書はもう終わった本で、新約聖書が普遍的な真理。旧約聖書はもういいみたいな。とんでもない間違いですよ。

旧約聖書を完全に除外したら、バランスが崩れたクリスチャンになると思います。でも第1に、旧約聖書を除外はしないけど、新約聖書と比べると劣っているということ刷り込んだんです。

**第2段階**；「私たちが救い主と信じているイエスは、反ユダヤ主義だったよね！」と持って行く。どうということかという、福音書の中で、イエスとユダヤ人たちが対立するんです。特にヨハネの福音書ですよ。

### ヨハネ 10 章

**24 ユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。あなたがキリストなら、はっきりと教えてください。」**だれが言ったんですか？ユダヤ人たちです。

**31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、再び石を取り上げた。**だれがイエスを石打ち、死刑にしようとしたんですか？ユダヤ人たちです。

**33 ユダヤ人たちはイエスに答えた。「あなたを石打ちにするのは良いわざのためではなく、冒涇のためだ。あなたは人間でありながら、自分を神としているからだ。」**

イエスの神性を認めようとしないうダヤ人。頭ガチガチみたいなことですよ。

### ヨハネ 11 章

**8 弟子たちはイエスに言った。「先生。ついこの間ユダヤ人たちがあなたを石打ちにしようとしたのに、またそこにおいでになるのですか。」**

これらを読んでいると、イエスとユダヤ人が対立概念で、まるでイエスがユダヤ人でないみたいな印象を受けるんじゃないですか？

イエスもユダヤ人です。ユダヤ人の処女マリアから生まれたんです。

だけど、「ユダヤ人はイエスに言った。」彼らがイエスに反発しているのは、ユダヤ人が大切にしているものをイエスが否定するからだ。イエスはユダヤ人に反ユダヤ的な態度を取ってきたんだと解釈するんじゃないですか？

だけどね、このユダヤ人という言葉には、いくつかの意味があるんですよ。

旧約聖書の時代、ユダヤ人たちの国は南北時代があって、北の方のユダヤ人をイスラエル人、南の方のユダヤ人をユダの人々とかユダヤ人とやったんです。

北のイスラエルはアッシリア捕囚ですでになくなっていましたが、南のユダがバビロン捕囚から帰ってきた後、元イスラエルの人たちも南ユダ王国の人たちもひっくるめて、ユダヤ人と言うようになったんです。その意味で、ユダヤ人というのは、南北イスラエル全部ひっくるめて、民族的な意味でユダヤ人と言う場合もあります。

しかし、福音書の中でユダヤ人と言ったときは、そうではないんです。

その場合は、ユダヤ地方に住んでいるユダヤ人なんです。

イエス時代のユダヤ人の国は、だいたい3つくらいのエリアに分かれています。

北はガリラヤ地方。真ん中はサマリア地方。南がユダヤ地方です。ユダヤ地方の中心がエルサレム。エルサレムは都・エリート町・敬虔な町・神殿がある。ユダヤ地方のユダヤ人たちの中に、宗教的リーダーの人たちがいます。福音書の中でユダヤ人と言った場合は、ユダヤ地方のユダヤ人のことです。ガリラヤ地方のユダヤ人はガリラヤ人。福音書に7回ガリラヤ人という言葉が出て来ますが、7回とも全部ユダヤ人を意味するんですよ。

### マタイ 26 章 69 節

**ペテロは外の中庭に座っていた。すると召使いの女が一人近づいて来て言った。「あなたもガリラヤ人イエスと一緒にいましたね。」**

ここで、イエスはガリラヤ人と言われている。ユダヤ人じゃなくなったんですか？ そうじゃない。ガリラヤ地方に住んでいるユダヤ人を、ガリラヤ人と言ったんです。私は日本人ですが、大阪人なんですよ。笑いを愛する大阪人なんですよ。東北の人とか薩摩の人とか、そんな言い方ってあるじゃないですか。ガリラヤ地方のユダヤ人だからガリラヤ人。

### マルコ 14 章 70 節

**すると、ペテロは再び否定した。しばらくすると、そばに立っていた人たちが、またペテロに言った。「確かに、あなたはあの人の仲間だ。ガリラヤ人だから。」**

ここでは、ユダヤ人のペテロが「ガリラヤ人だ」と言われている。彼はガリラヤ地方に住んでいるユダヤ人なんです。

ユダヤ地方に住んでいるユダヤ人はユダヤ人と呼ばれたんですね。なので、イエスがユダヤ人と対立したというのは、エルサレムを中心とする宗教エリートと対立したのであって、反ユダヤ主義になったんじゃないんですよ。ところが、「イエスはユダヤ人と対立している。つまり、我々の救い主は反ユダヤ主義だから、我々が反ユダヤ主義になっても全然差支えないんだ！」という論理を持って来たんです。これが第2段階ですよ。

**第3段階**；「そもそも、イエスはユダヤ人ではなくアーリア人だ」と言ったんです。「おまえ、どっからそんなこと言えんねん。ええかげんにせえよ」となるけど。

**マタイの福音書 4 章 12 節から 16 節に、イザヤ書の引用が書いてあります。イエスはヨハネが捕らえられたと聞いて、ガリラヤに退かれた。そしてナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある、海のほとりの町、カペナウムに来て住まわれた。これは、預言者イザヤを通して語られたことばが成就するためであった。「ゼブルンの地とナフタリの地、海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦人のガリラヤ。」**

「異邦人のガリラヤ」と書いてある。イエスは異邦人のガリラヤを拠点として活動していた。ガリラヤは異邦人だから、ガリラヤ出身のイエスは異邦人で、アーリア人

だ」と、ムチャクチャなことを言うんです。イエスが生まれたのはベツレヘムなんですよ。確かに公生涯の前半は、ガリラヤを中心に活動されたんですけどね。

異邦人のガリラヤ。イスラエルの最北の方ですが、ここにはユダヤ人と異邦人が混在していました。昔、アッシリアがユダヤ人を捕囚で引っ張って行き、留守になったガリラヤに外国人を移民させたんです。それで、ユダヤ人と異邦人が両方住むようになってしまったんですね。

イエスの時代でも、ガリラヤ地方のティベリア／ティベリアスという町は完全にローマ式の町です。イエスは公生涯の間、ティベリアに一步も足を踏み入れてません。あまりにも異邦人の町で。

ガリラヤ地方の都市部は異邦人が多いけど、村に行くとユダヤ人が圧倒的に多い。でも、ユダヤ人だけが住んでいる町ではない。だから異邦人のガリラヤと言っているわけで、ガリラヤを拠点として活動したからイエスは異邦人だというのは、聖書を全く知らない者が言うことです。

なぜそんなことがまかり通ったのか。「イエス・メシアはユダヤ人ダビデの子孫から生まれる」という旧約聖書を除外しているからですよ。旧約聖書を除外したら、新約聖書の正しい理解なんかできないんですよ。

だけど、こんなムチャクチャな異端的教えが入って来たのに、なぜみんな「これ異端やないか！」って声を上げなかったのか。実はナチスが政権を取る前からすでに、一般ドイツ人や教会内部に反ユダヤ的感情があったんです。

これはカトリック教会からの色んな神学があったんですが、中世時代に、ユダヤ人はキリスト殺しだという神学がありましたよ。ルターも晩年には反ユダヤ主義の文書を書いているじゃないですか。ずーっと反ユダヤ的なことが入っていて、しかも旧約聖書を除外していったら、ナチスの反ユダヤのプロパガンダが来た時に、「あいつらやったら、やりかねんわな」みたいになるんですよ。

今お茶の間を賑わしている色んな中東情勢の解説を見ていると、もうとにかく反イスラエル・反ユダヤ。自称中東専門家の方々が、ずーっと延々と言っている。

クリスチャンまでもが、「これ（イスラエル）はあまりにも酷すぎるんじゃないか」のような傾向がないですか？そういう方々、旧約聖書を読んではりますか？

かく言う私も、聖書は年2回は通読していますが、学ぶということでは、旧約聖書の小預言書はずっと学んで来なかったんです。この1～2年かけて小預言書を全部読んで、「こんなことが聖書に書いてあったんか！」と、目から鱗のオンパレード。いつかごうちゃんねるでも、小預言書の紹介をさせていただきたいなと思ってるんですけど。

とにかく、反ユダヤ感情がナチス以前からあったということが恐ろしくて、そういうものがナチスが出て来た時にブレーキが壊れるような状態になり、すぐに落ちてしまった。今の日本は似てるんじゃないかという心配があるんですよ。

そして、当時のドイツのクリスチャンたちが、「クリスチャンは日曜日に教会に行って、キリストを礼拝してたらそれでいいんや。礼拝さえ守っていたらいいんや」「クリスチャンたちが信仰以外の政治問題に口出しするのは、世の事に関わることなんだ。信仰の問題と政治の問題は切り分けないとダメなんだ」「政治がどんな横暴をやっても、それは世の事だから関わらなくていいんだ」と言ってるうちに、その世の勢力によって教会が乗っ取られて行くんですよ。

ヒトラーが台頭して初めの時、失業率が急速に改善したんです。治安は回復し、経済は復興し、国威が発揚されて、今までよりもはるかにドイツ人としての誇りを持ちやすく、住みやすく、生活しやすく、安定してきた。そういうことが肌身にかけて実感できるようになった時、この安全や秩序回復や繁栄は神の祝福に見えたんです。だからあの神学者のように、「キリストはアドルフ・ヒトラーを通して来てくださった」みたいなバカなことを言う奴が出て来るんです。つまり、成功＝祝福という間違っただけの考えですよ。

生活が安定して、繁栄して、豊かになっていったら、それは神が100%是認していることなのか？そうとは限らないケースだって、いっぱいあるんです。だけど、この神学的な異常に気がつかないのは、「あなた（ユダヤ民族）を祝福する者は祝福され、あなた（ユダヤ民族）を呪う者はのろわれる」というアブラハム契約が明記されている旧約聖書を除外しているから。「あれ、おかしいな」と思う拠り所を持ってないということなんですね。

そして、「これはさすがにおかしい」と思い始めた時には、もう手遅れ。ナチスドイツの秘密警察ゲシュタポが、反対するクリスチャンたちや牧師たち・神父たちを片端から検挙し逮捕し、強制収用所に連れて行って、ボンヘッファーみたいに殉教に至らしめたんです。その時に「これは間違っていた」と思っても、もう遅かったということなんですよ。

こういう間違いは、どこから始まってしまったのか。旧約聖書を捨てる教会はもはや、キリストの名に値しない異端宗教だと言えるんじゃないですか？新約聖書はもちろん100%神の靈感なんですよ。でも、新約聖書を支えているのは旧約聖書じゃないですか。新約と旧約の両方あって、はじめて聖書じゃないですか。旧約聖書無しに新約聖書は成立しないんじゃないですか？

イエスはそもそも、旧約聖書の成就として来られた救い主です。救い主イエスの預言の部分について、『世界は聖書でできている』の3章にみっちり書いたんですよ。ぜひクリスマスシーズンに読んでいただいて、反ユダヤ主義・反イスラエル主義のワクチンとして、2度目も読んでいただけたら感謝です。そして、これが日本中に広まるように助けていただけたら感謝です。

今日は、「反ユダヤ主義に抵抗するための拠り所は旧約聖書にあるんですよ」ということをお伝えしました。また、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

